

# つながり

「つながり」は、医療や介護に従事する皆様が、多職種に向けて自らの情報を発信し、互いに理解を深め、顔の見える関係を築くための連携ツールとして、季節の節目ごとの発行を予定しております。皆様からのご意見やご要望、ご提案など、是非、本センターまでお寄せください。お待ちしております。

## 在宅医療推進のための多職種連携研修会を開催しました！

令和元年10月20日、秋田市と秋田市在宅医療・介護連携センター（秋田市医師会）の主催により、在宅医療の推進および多職種連携の促進を目的とする『秋田市在宅医療推進のための多職種連携研修会』を開催しました。研修会には、在宅医療介護関係の各団体からご推薦いただいた44名の専門職の方々にお集まりいただきました。受講いただいた方々には、秋田市内における在宅医療の推進および多職種連携の促進の旗振り役を担っていく事を期待しながら、修了証書が授与されました。

※本研修会は厚生労働省のガイドライン「在宅医療推進のための地域における多職種研修会研修運営ガイド〈第2版〉」を元に企画構成し、開催したものです。

**開催日時：令和元年10月20日（日）10：00～16：30**  
**会場：秋田キャッスルホテル 3階 弥生の間**  
**主催：秋田市、秋田市在宅医療・介護連携センター（秋田市医師会）**

今回の『つながりvol.3』では、本研修会の一日をご紹介します！



松岡一志医師会長による開会のあいさつ

### 〈開 会〉

秋田市医師会 松岡会長による「医療と介護は地域包括ケアシステムの一丁目一番地。その連携推進のリーダー役を務めるといふ気持ちで臨んでもらいたい」という呼びかけのもとで研修会がスタートしました。



会場全体の様子  
6つのグループに分かれました

- ① 在宅医療が果たすべき役割
- ② 在宅医療と介護においてなぜ多職種連携が必要なのか？

講師 東京大学高齢社会総合研究機構（IOG） 特任講師 後藤 純 氏

秋田市の人口動態のグラフなどを用いて、在宅医療推進の必要性についての講話がありました。多職種がお互いを尊重しながらチーム形成していくことが必須であること、「治す医療」から「治し支える医療」への転換が必要であることなどをお話いただきました。



IOG 後藤純氏

- ③ 認知症の基本理解

講師 清和病院 藤枝 信夫 氏

在宅において、どの職種でも関わる機会が多い認知症の基礎的知識について、多職種が一律に学ぶ場となりました。アルツハイマー型認知症を中心に、その症状と治療方法、ステージ別のケアについて、また、基礎疾患別症状の違いや、自動車を運転した時に現れる疾患別の特徴などに関する説明がありました。



清和病院 藤枝信夫氏

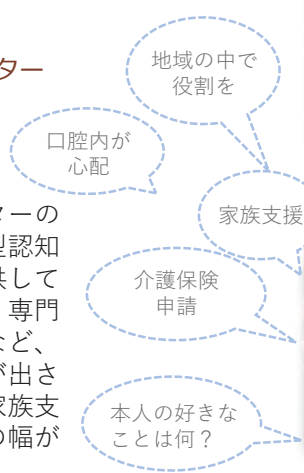
- ④ 事例検討

- 1) 事例紹介 秋田緑ヶ丘病院 秋田県認知症疾患医療センター
- 2) グループワーク 進行：秋田市医師会 松岡 会長
- 3) 発表
- 4) 総括 清和病院 藤枝 信夫 氏

秋田緑ヶ丘病院 秋田県認知症疾患医療センターの相談員の渡部氏と古仲氏から、アルツハイマー型認知症と診断された女性に関する事例の情報を、提供いただきました。夫との暮らしを支えるために、専門職として何ができるか、まずは何から始めるかなど、実践をイメージしながら様々な視点からの意見が出されました。参加者からは「当事者支援と同時に家族支援も必要」「多職種で関わる事でアセスメントの幅が広がる」などの意見が聞かれました。



司会進行をする松岡会長



秋田緑ヶ丘病院  
秋田県認知症疾患医療センター  
渡部氏 古仲氏



グループワークの様子

## ⑤ 在宅医療介護関係者が知っておくべき報酬や制度

講師 小川内科医院 島仁氏

医療保険と介護保険の比較を含め、在宅医療に関わる診療報酬の講義がありました。今後の在宅医療の問題点として、診療所の医師の高齢化、医療機関同士の連携（バックアップ体制）、関係機関との連携、住民への情報提供などを挙げながらお話しをいただきました。

## ⑥ 在宅医療を推進する上での課題とその解決策

- 1) 課題抽出／解決策提起
- 2) グループワーク 進行：秋田市医師会 松岡 会長
- 3) 発表
- 4) 総括 I O G 特任講師 後藤 純 氏

個人、組織、地域という単位で捉えたとき、秋田市内の医療介護連携における課題や解決策は何か、専門職としてそれぞれの考えを出し合い、議論しました。研修会の総括的位置づけとなるグループワークとなりました。

人材不足

情報共有  
ツールを

まずは  
連絡する

お互いの  
理解不足

小川内科医院 島仁氏



グループワークでは立ち上がりながら議論する場が多く見られました

### 〈修了証書授与〉

全てのプログラムが終了し、最後は松岡会長による修了証書授与。御野場病院 院長の皆河崇志氏が、全受講者の代表として修了証書を受け取りました。

### 〈閉 会〉

秋田市福祉保健部 秋山部長からの講評と、秋田市医師会在宅医療担当 長谷山理事からのあいさつで、研修会が締めくくられました。



秋田市福祉保健部  
秋山尚子部長



在宅医療担当  
長谷山俊之理事



修了証書を受け取る  
御野場病院 皆河崇志氏

## 研修会を受講された方のご意見やご感想をお聞きました（アンケートより一部抜粋しています）

今後の実務で、疑問に思ったことは積極的にケアマネさんや医師に聞き、尻ごみせず在宅医療の輪に入っていこうと思った。（薬剤師）

グループワークで取り上げられる内容を、事前に団体内で話し合っておくのはどうか。当日の議論がより有効になるのでは。（介護支援専門員）

医療職と介護職とでは、同じ事例に対してもこれ程視点が違うのかと驚いた。お互いの考え方をもっと共有できれば連携に繋がると思う。（福祉施設職員）

まだ在宅を始めていない場合、専門職としての意見を求められると辛い。あまりこだわらずに気軽に意見を言える環境が欲しい。（歯科医師）

## 連携センターより

当センターでは今後もこのような研修会を継続しながら、修了者の方々と共に、在宅医療の推進と医療・介護連携を図っていくための仕組みづくりを進めて参ります。また、既成事業の枠にとどまらず、各関係団体の事業ともリンクしながらより効果的に活動展開できるよう、市と協議しながら関連事業を進めていくこととしています。今後ともご関係の皆様方のご協力よろしく申し上げます。

## 連携センターからのお知らせ：資源調査のご協力をお願いします

ホームページに地域の医療・介護事業所の基本情報を公開しております。より詳細な情報掲載に向けて、現在各事業所あてにメールや郵送等で調査のお願いをしておりますが、まだ回答いただいていない事業所が見られます。来年1月中旬に公開する予定ですので、なにとぞ再度のご確認をよろしくお願いいたします。

秋田市在宅医療・介護連携センターホームページURL <http://www.acma.or.jp/renkei/>



## 秋田市在宅医療・介護連携センター

〈受付時間〉月～金(祝祭日を除く)午前9時～午後5時  
〒010-0976 秋田市八橋南一丁目8番5号(秋田市医師会館内)

TEL : 018-827-3636 FAX : 018-827-3614

E-mail [renkei-center@acma.or.jp](mailto:renkei-center@acma.or.jp)

URL <http://www.acma.or.jp/renkei/>



### 編集後記

研修会後のアンケートで、ご意見、ご感想をたくさんいただきましたが、紙面の関係上一部しか掲載できず、申し訳ありません。貴重なご意見を寄せて下さった皆様、本当にありがとうございました。受講された皆様、お疲れ様でした。  
(熊谷)

